

対象校No. 125
注4

学校コード F127110107852
注3

設置年度 令和 6年度

事前相談

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注2 注1

大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・
福井大学連合小児発達学研究科 小児発達学専攻（博士前期課程）

【事前相談】研究科の専攻の課程の変更に係る設置計画履行状況報告書
（改正後大学設置基準適用）

国立大学法人大阪大学
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	統括理事オフィス 経営デザインチーム
職名・氏名	チーフ スギヤマ 杉山 ハヤト 隼人
電話番号	06-6879-7158
（夜間）	06-6879-7158
e-mail	toukatsu- edrs@office.osaka-u.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学

連合小児発達学研究科＜小児発達学専攻（博士前期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	16
4. 既設大学等の状況	17
5. 教育研究実施組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	41
7. その他全般的事項	42

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人大阪大学

(2) 大 学 名

大阪大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2
〒920-8640 石川県金沢市宝町13-1
〒431-3192 静岡県浜松市中央区半田山1-20-1
〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3
(〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(フリガナ) 氏 名 (現職就任年月)	(フリガナ) 氏 名 (現職就任年月)	
学 長	(ニシオ ショウジロウ) 西尾 章治郎 (平成27年8月)		
研究科長	(カタヤマ タイイチ) 片山 泰一 (令和6年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
- (例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)
令和6年度に報告する内容 → (6)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学専攻科 小児発達学専攻博士前期課程修士(小児発達学)	保健衛生学関係(看護学関係) 医学関係	2年	15人	2年次 —人 3年次 —人 4年次 —人	30人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1)又は(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	人 — (—) [—]	15人 15 (0) [0]	0人 (—) [0]	—	1.06倍	—		
志願者数	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	19人 (—) [3]	0人 (—) [0]					
受験者数	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	18人 (—) [3]	0人 (—) [0]					
合格者数	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	16人 (—) [3]	0人 (—) [0]					
B 入学者数	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	16人 (—) [3]	0人 (—) [0]					
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		—		1.06					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
・ 転入学生は記入しないでください。
・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「—」を選択。)
・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	16 [3] (0)	0 [0] (0)	
2 年次			－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	0 [0] (0)	0 [0] (0)	
3 年次					－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	0 [0] (0)	
4 年次							－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	
計													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和6年度	16 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\quad - \quad} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\quad - \quad} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\quad - \quad} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\quad - \quad} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{16} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所＜小児発達学専攻（博士前期課程）＞

（１）－① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎導入科目	生命倫理学	1 ①	2								10
	研究基礎技法	1 ①②	2			5					
	小計(2科目)	-	4			5					10
生命科学系科目	神経薬理学1	1 ③		1		1					3
	神経薬理学2	1 ④		1		1					1
	行動情動神経科学1	1 ③		1		1					4
	行動情動神経科学2	1 ④		1		1	1		1		1
	臨床遺伝学	1 ①		1		1					1
	発達分子生物学	1 ②		1				2	2		4
	神経社会環境学	1 ③		1			2		1		5
	基礎神経科学	1 ①		1		1	1	1	1		
	発達基礎神経科学	1 ①②		1		1		1			
	小計(9科目)	-		9		3	3	2	5		18
医療系科目	小児発達医学1	1 ①		1			2				2
	小児発達医学2	1 ③		1		1					3
	児童精神医学1	1 ③		1		1					3
	児童精神医学2	1 ④		1		1					4
	疫学統計学1	1 ①		1		2		1	1		
	疫学統計学2	1 ②		1		1		1			
	運動機能制御学1	1 ③		1		1					1
	運動機能制御学2	1 ④		1		1					4
	機能画像解析学1	1 ③		1			2				5
	機能画像解析学2	1 ④		1		1	2		2		3
	小計(10科目)	-		10		4	5	1	3		22
社会・心理系科目	発達臨床心理学1	1 ①		1			1		3		2
	発達臨床心理学2	1 ②		1			1		1		4
	小児発達評価学	1 ③		1							3
	小児発達療育学	1 ④		1							5
	小児保健学	1 ②		1					1		4

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎導入科目	生命倫理学M	1①		2								10
	研究基礎技法M	1①		2			5	2	5	2		1
	小計(2科目)	-		4			5	2	5	2		11
生命科学系科目	神経薬理学1M	1③			1		1					2
	神経薬理学2M	1④			1		1			1		1
	行動情動神経科学1M	1③			1			1				4
	行動情動神経科学2M	1④			1		1	1		1		1
	臨床遺伝学M	1①			1		1					2
	発達分子生物学M	1②			1				2	2		4
	神経社会環境学M	1③			1			2		1		5
	基礎神経科学M	1①			1		1	1	1	1		1
	発達基礎神経科学M	1④			1		2		2	1		4
	小計(9科目)				9		4	3	2	6		21
医療系科目	小児発達医学1M	1①			1		1	2				2
	小児発達医学2M	1③			1		1	1		1		6
	児童精神医学1M	1③			1		1					3
	児童精神医学2M	1④			1		1					5
	疫学統計学1M	1①			1		2		1	1		
	疫学統計学2M	1②			1		1		1			
	運動機能制御学1M	1③			1		1					1
	運動機能制御学2M	1④			1		1					4
	機能画像解析学1M	1③			1			2	1	2		4
	機能画像解析学2M	1④			1		2	1		2		3
	小計(10科目)				10		5	4	2	5		25
社会・心理系科目	発達臨床心理学1M	1①			1			1		2		2
	発達臨床心理学2M	1②			1			1		2		4
	小児発達評価学M	1③			1							3
	小児発達療育学M	1④			1							5
小児保健学M	小児保健学M	1②			1					1		7

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
導入科目 社会・心理系科目	認知行動療法学1	1 ①		1		2					5
	認知行動療法学2	1 ②		1		1			1		5
	社会支援学	1 ②		1		2			1		1
	インストラクショナルデザイン研究	1 ①②③④		1							1
	発達教育心理学	1 ①②③④		1							1
	生徒指導・教育相談概論	1 ④		1		1					2
	教育発達支援学	1 ④		1		2		1			4
	小計(12科目)	-		12		5	1	1	7		33
基礎演習科目	こころの発達神経科学基礎演習	1 通		3		2	4	2			
	こころの相互認知科学基礎演習	1 通		3		1	3		1		5
	こころの発達健康科学基礎演習	1 通		3		2		3	4		
	こころの認知行動科学基礎演習	1 通		3		3		1	1		1
	こころの形成発達科学基礎演習	1 通		3		1					1
	小計(5科目)	-		15		9	7	6	6		7
専門科目(基礎特論)	分子生物学基礎特論	2 通		3		1		1	3		
	認知行動生物学基礎特論	2 通		3			1		1		2
	画像生物学基礎特論	2 通		3		1		1	2		1
	神経人間社会環境学基礎特論	2 通		3			2				2
	情動認知発達学基礎特論	2 通		3			1		2		
	認知行動脳科学基礎特論	2 通		3		1					6
	発達神経科学基礎特論	2 通		3		1		1			
	小計(7科目)	-		21		4	4	3	8		11

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎導入科目 社会・心理系科目	認知行動療法学1M	1①			1		2			1		4
	認知行動療法学2M	1②			1		1			2		4
	社会支援学M	1②			1		3			1		1
	インストラクショナルデザイン研究M	1②			1							1
	発達教育心理学M	1②			1							1
	ストレスチェック学校保健学M	1②			1		0					2
	教育発達支援学M	1④			1		2		1			5
	小計(12科目)				12		5	1	1	9		36
基礎演習科目	こころの発達神経科学基礎演習	1通			3		3	3	2	4		1
	こころの相互認知科学基礎演習	1通			3		1	3		1		5
	こころの発達健康科学基礎演習	1通			3		2		3	4		1
	こころの認知行動科学基礎演習	1通			3		2		1	4		6
	こころの形成発達科学基礎演習	1通			3		1			1		1
	小計(5科目)				15		9	6	6	14		14
専門科目(基礎特論)	分子生物学基礎特論	2通			3		1		1	3		
	認知行動生物学基礎特論	2通			3			1		1		2
	画像生物学基礎特論	2通			3		0		1	0		2
	神経人間社会環境学基礎特論	2通			3			2				2
	情動認知発達学基礎特論	2通			3			1		3		
	認知行動脳科学基礎特論	2通			3		1			1		4
	発達神経科学基礎特論	2通			3		1		1			
	生命情報学基礎特論	2通			3		1					
	小計(8科目)				24		4	4	3	8		10

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目(基礎特論)	高次脳機能学基礎特論	2 通		3			1				2
	小児発達神経学基礎特論	2 通		3			2				
	疫学統計学基礎特論	2 通		3		1		3	2		2
	高次脳機能損傷学基礎特論	2 通		3			1		2		
	協調運動障害学基礎特論	2 通		3		1					2
	脳機能発達学基礎特論	2 通		3		1			2		
	認知行動療法学基礎特論	2 通		3		1			1		2
	小計(7科目)	-		21		4	4	3	7		8
社会・心理系科目	子育て支援学基礎特論	2 通		3			1		2		
	コミュニケーション支援学基礎特論	2 通		3					1		3
	社会支援学基礎特論	2 通		3		2		1	3		3
	発達環境支援学基礎特論	2 通		3			1				
	メンタルヘルス支援学基礎特論	2 通		3		1		1			3
	小計(5科目)	-		15		3	2	2	6		9
合計(57科目)			-	4	103		9	8	6	20	88
卒業要件及び履修方法											
修了要件は、本研究科に2年以上在学し、授業科目につき30単位以上修得し、必要な研究指導を受け、かつ、本研究科が行う修士論文の審査に合格すること。											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			専任教員等の配置					単位 取得 率 （%）
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（基礎特論）	高次脳機能学基礎特論	2通			3			1				1
	小児発達神経学基礎特論	2通			3			2				
	疫学統計学基礎特論	2通			3		2		3	3		2
	高次脳機能損傷学基礎特論	2通			3		1	0		1		
	協調運動障害学基礎特論	2通			3		1					2
	脳機能発達学基礎特論	2通			3		1			2		4
	小計(6科目)				18		5	3	3	6		9
社会・心理系科目	子育て支援学基礎特論	2通			3			1		2		
	コミュニケーション支援学基礎特論	2通			3					1		3
	社会支援学基礎特論	2通			3		2		2	4		3
	発達環境支援学基礎特論	2通			3			1				
	メンタルヘルス支援学基礎特論	2通			3		1		1			2
	認知行動療法学基礎特論				3		1			1		1
	小計(6科目)				18		4	2	3	8		9
合計(58科目)				4	106		11	7	6	25		93
卒業要件及び履修方法												
修了要件は、本研究科に2年以上在学し、授業科目につき30単位以上修得し、必要な研究指導を受け、かつ、本研究科が行う修士論文の審査に合格すること。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。
 - ・ 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
- なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「認可時又は届出時」の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼担」としてください。その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)」数は、認可時又は届出時の「専任教員」数との比較において変更となっている箇所、「基幹教員以外の教員(助手を除く)(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)」数は、認可時又は届出時の「兼任・兼担」数との比較において変更となっている箇所を太字の赤字としてください。
- (専任教員から基幹教員に変更したことをもって太字の赤字とする必要はありません。)
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
- その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
- 新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
- (例: 記載順) 【認可時又は届出時】→【令和6年度(新)】→【令和5年度(新)】→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度(旧)】→【令和5年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和6年度】

・博士後期課程の科目区分と区別するため、「導入科目」の名称を「基礎導入科目」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「生命倫理学」の名称を「生命倫理学M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「研究基礎技法」の名称を「研究基礎技法M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「神経薬理学1」の名称を「神経薬理学1M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「神経薬理学2」の名称を「神経薬理学2M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「行動情動神経科学1」の名称を「行動情動神経科学1M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「行動情動神経科学2」の名称を「行動情動神経科学2M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「臨床遺伝学」の名称を「臨床遺伝学M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「発達分子生物学」の名称を「発達分子生物学M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「神経社会環境学」の名称を「神経社会環境学M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「基礎神経科学」の名称を「基礎神経科学M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「発達基礎神経科学」の名称を「発達基礎神経科学M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「小児発達医学1」の名称を「小児発達医学1M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「小児発達医学2」の名称を「小児発達医学2M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「児童精神医学1」の名称を「児童精神医学1M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「児童精神医学2」の名称を「児童精神医学2M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「疫学統計学1」の名称を「疫学統計学1M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「疫学統計学2」の名称を「疫学統計学2M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「運動機能制御学1」の名称を「運動機能制御学1M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「運動機能制御学2」の名称を「運動機能制御学2M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「機能画像解析学1」の名称を「機能画像解析学1M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「機能画像解析学2」の名称を「機能画像解析学2M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「発達臨床心理学1」の名称を「発達臨床心理学1M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「発達臨床心理学2」の名称を「発達臨床心理学2M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「小児発達評価学」の名称を「小児発達評価学M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「小児発達療育学」の名称を「小児発達療育学M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「小児保健学」の名称を「小児保健学M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「認知行動療法学1」の名称を「認知行動療法学1M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「認知行動療法学2」の名称を「認知行動療法学2M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「インストラクショナルデザイン研究」の名称を「インストラクショナルデザイン研究M」に変更。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「発達教育心理学」の名称を「発達教育心理学M」に変更。 ・「生徒指導・教育相談概論」を発展させ、授業科目名称を「ストレスチェック学校保健学」に変更し、博士後期課程の授業科目名称と区別するため末尾に「M」を追記。 ・導入科目における博士後期課程の授業科目名称と区別するため、「教育発達支援学」の名称を「教育発達支援学M」に変更。 ・科目新設により、「生命情報学基礎特論」を追加し、教授を1名配置。 ・「認知行動療法学基礎特論」について、医療系科目から社会・心理系科目に見直しを行った。 ・「研究基礎技法M」について、配当年次を「1・12」から「1・1」に変更。 ・「発達基礎神経科学M」について、配当年次を「1・12」から「1・4」に変更。 ・「インストラクショナルデザイン研究M」について、配当年次を「1・1234」から「1・2」に変更。 ・「発達教育心理学M」について、配当年次を「1・1234」から「1・2」に変更。 ・「ストレスチェック学校保健学M」について、配当年次を「1・4」から「1・2」に変更。 ・「研究基礎技法M」について、教員配置の見直し（准教授2名・講師5名・助教2名増・兼任教員1名増）。 ・「神経薬理学1M」について、教員配置の見直し（兼任教員1名減）。 ・「神経薬理学2M」について、教員配置の見直し（助教1名増）。 ・「臨床遺伝学M」について、教員配置の見直し（兼任教員1名増）。 ・「基礎神経科学M」について、教員配置の見直し（兼任教員1名増）。 ・「発達基礎神経科学M」について、教員配置の見直し（教授1名・講師1名・助手1名増、兼担・兼任教員4名増）。 ・「小児発達医学1M」について、昇任等による職名変更と教員配置の見直し（教授1名増）。 ・「小児発達医学2M」について、昇任等による職名変更と教員配置の見直し（教授1名・助手1名増、兼担・兼任教員3名増）。 ・「児童精神医学2M」について、教員配置の見直し（兼任教員1名増）。 ・「機能画像解析学1M」について、教員配置の見直し（講師1名・助教2名増、兼任教員1名減）。 ・「機能画像解析学2M」について、昇任等による職名変更（教授1名増、准教授1名減）。 ・「発達臨床心理学1M」について、教員配置の見直し（助教1名減）。 ・「発達臨床心理学2M」について、教員配置の見直し（助教1名増）。 ・「小児保健学M」について、教員配置の見直し（兼任教員3名増）。 ・「認知行動療法学1M」について、兼任教員から専任教員への区分の変更（兼任教員1名減、助教1名増）。 ・「認知行動療法学2M」について、兼任教員から専任教員への区分の変更（兼任教員1名減、助教1名増）。 ・「社会支援学M」について、教員配置の見直し（教授1名増）。 ・「ストレスチェック学校保健学M」について、教員配置の見直し（教授1名減）。 ・「教育発達支援学M」について、教員配置の見直し（兼任教員1名増）。 ・「こころの発達神経科学基礎演習」について、昇任等による職名変更と教員配置の見直し（教授1名増、准教授1名減、助教4名・兼任教員1名増）。 ・「こころの発達健康科学基礎演習」について、教員配置の見直し（兼任教員1名増）。 ・「こころの認知行動科学基礎演習」について、教員配置の見直し（教授1名減、助教3名・兼任教員5名増）。 ・「こころの形成発達科学基礎演習」について、教員配置の見直し（助教1名増）。 ・「画像生物学基礎特論」について、教員配置の見直し（教授1名・助教2名減、兼任教員1名増）。 ・「情動認知発達学基礎特論」について、教員配置の見直し（助教1名増）。 ・「認知行動脳科学基礎特論」について、教員配置の見直し（助教1名増、兼任教員2名減）。 ・「高次脳機能学基礎特論」について、昇任等による職名変更と教員配置の見直し（助教1名減）。 ・「疫学統計学基礎特論」について、教員配置の見直し（教授1名・助教1名増）。 ・「脳機能発達学基礎特論」について、教員配置の見直し（兼任教員4名増）。 ・「高次脳機能損傷学基礎特論」について、昇任等による職名変更と教員配置の見直し（教授1名増、准教授1名・助教1名減）。 ・「社会支援学基礎特論」について、昇任等による職名変更と教員配置の見直し（講師1名増、助教1名増）。 ・「メンタルヘルス支援学基礎特論」について、教員配置の見直し（兼任教員1名減）。 ・「認知行動療法学基礎特論」について、教員配置の見直し（兼任教員1名減）。	・必須科目について、教員配置の見直しにより教員合計数の変更（准教授2名・講師5名・助教2名・専任教員以外の教員1名増） ・生命科学系科目について、教員配置の見直しにより教員合計数の変更（教授1名・助教1名・専任教員以外の教員3名増） ・医療系科目について、教員配置の見直しにより教員合計数の変更（教授1名増、准教授1名減、講師1名・助教2名・専任教員以外の教員3名増） ・社会・心理系科目について、教員配置の見直しにより教員合計数の変更（助教2名・専任教員以外の教員3名増） ・基礎演習科目について、教員配置の見直しにより教員合計数の変更（准教授1名減、助教8名・専任教員以外の教員7名増） ・生命科学系科目について、科目新設により科目数変更（1増）、単位数変更（選択3増）および教員配置の見直しにより教員合計数の変更（専任教員以外の教員1名減） ・医療系科目について、区分変更による科目数変更（1減）、単位数変更（選択3減）および教員配置の見直しにより教員合計数の変更（教授1名増、准教授1名・助教1名減、専任教員以外の教員1名増） ・社会・心理系科目について、区分変更による科目数変更（1増）、単位数変更（選択3増）、教員配置の見直しにより教員合計数の変更（教授1名・講師1名・助教2名増） ・科目新設により科目数合計数変更（1増）、単位数合計数変更（選択3増）および教員配置の見直しにより教員合計数の変更（教授2名増、准教授1名減、助教5名・専任教員以外の教員5名増）
--	---

- (注) ・ 2 (1) ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、基幹教員等の配置の変更、主要授業科目の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。
変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。また、改正後大学設置基準（令和4年10月1日施行）の適用により、専任教員から基幹教員に変更した場合（例：「専任教員 教授1」から「基幹教員 教授1」に変更）や、兼任・兼担教員から基幹教員以外の教員に変更した場合（例：「兼任教員1」から「基幹教員以外の教員1」に変更）については、記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
2 科目	55 科目	0 科目	57 科目	2 科目 [0]	56 科目 [1]	0 科目 [0]	58 科目 [1]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{57} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	1, 033, 339㎡	0㎡	0㎡	1, 033, 339㎡				
	そ の 他	406, 390㎡	0㎡	0㎡	406, 390㎡				
	合 計	1, 439, 729㎡	0㎡	0㎡	1, 439, 729㎡				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
		693, 353㎡ 689, 828㎡ (693, 353㎡ 689, 828㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	693, 353㎡ 689, 828㎡ (693, 353㎡ 689, 828㎡)	校舎面積を変更 (6)			
(3)講義室等・新設研究科等の専任教員研究室		講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の専任教員研究室				
		7室	26室	6室	23室 22室	増設した学生スペースに隣接する研究室を新設 (6)			
(4)図書・設備	新設学部等の名称	図 書		学術雑誌		機械・器具	標 本		
		〔うち外国書〕冊	電子図書〔うち外国書〕	〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕				
	大学全体	3, 714, 007 [1, 809, 815] 3, 708, 131 [1, 812, 515] (3, 714, 007 [1, 809, 815] 3, 708, 131 [1, 812, 515])	40, 964 [34, 161] 39, 872 [33, 813] (40, 964 [34, 161] 39, 872 [33, 813])	107, 583 [69, 708] 110, 307 [72, 327] (107, 583 [69, 708] 110, 307 [72, 327])	34, 872 [33, 300] 36, 730 [35, 200] (34, 872 [33, 300] 36, 730 [35, 200])	535 (535)	0 (0)		
	計	3, 714, 007 [1, 809, 815] 3, 708, 131 [1, 812, 515] (3, 714, 007 [1, 809, 815] 3, 708, 131 [1, 812, 515])	40, 964 [34, 161] 39, 872 [33, 813] (40, 964 [34, 161] 39, 872 [33, 813])	107, 583 [69, 708] 110, 307 [72, 327] (107, 583 [69, 708] 110, 307 [72, 327])	34, 872 [33, 300] 36, 730 [35, 200] (34, 872 [33, 300] 36, 730 [35, 200])	535 (535)	0 (0)		
(5)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の2)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 「(4)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(5)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	大 阪 大 学							収容定員充足率0.7倍以下の学科数	2	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	2
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考
文学部	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
人文学科	4	165	0	660	学士(文学)	1.12	1.05	－	平成20	大阪府豊中市待兼山町1番5号	
人間科学部	4	137	3年次10	568		1.12	1.06				
人間科学科	4	137	3年次10	568	学士(人間科学)	1.12	1.06	－	平成20	大阪府吹田市山田丘1番2号	
外国語学部	4	580	3年次10	2,340		1.19	1.01				
外国語学科	4	580	3年次10	2,340	学士(言語・文化)	1.19	1.01	－	平成20	大阪府箕面市船場東3丁目5番10号	
法学部	4	250	3年次10	1,020		1.07	1.02				
法学科	4	170	3年次10	700	学士(法学)	1.05	1.00	－	平成20	大阪府豊中市待兼山町1番6号	
国際公共政策学科	4	80	0	320	学士(法学)	1.11	1.05	－	平成20	同上	
経済学部	4	220	3年次10	900		1.10	1.05				
経済・経営学科	4	220	3年次10	900	学士(経済学)	1.10	1.05	－	平成20	大阪府豊中市待兼山町1番7号	
理学部	4	255	0	1,020		1.13	1.07				
数学科	4	47	0	188	学士(理学)	1.17	1.10	－	平成20	大阪府豊中市待兼山町1番1号	
物理学科	4	76	0	304	学士(理学)	1.12	1.07	－	平成20	同上	
化学科	4	77	0	308	学士(理学)	1.10	1.05	－	平成20	同上	
生物科学科	4	55	0	220	学士(理学)	1.14	1.06	－	平成20	同上	
医学部	6・4	257	2年次10	1,284							
医学科	6	97	2年次10	644	学士(医学)	1.03	1.00	令和6	平成20	大阪府吹田市山田丘2番2号	令和6年度入学定員変更(95→97※単年度の暫定増員) ※平成31～令和4年度の入学定員は暫定増員含め各年度100名 ※令和5年度の入学定員は暫定増員含め97名
保健学科	4	160	0	640		1.04	1.02		平成20	大阪府吹田市山田丘1番7号	
看護学専攻	4	80	0	320	学士(看護学)	1.02	1.00	－			
放射線技術科学専攻	4	40	0	160	学士(保健衛生学)	1.01	1.00	－			
検査技術学専攻	4	40	0	160	学士(保健衛生学)	1.11	1.08	－			
歯学部	6	53	0	318		1.05	1.00				
歯学科	6	53	0	318	学士(歯学)	1.05	1.00	－	平成20	大阪府吹田市山田丘1番8号	
薬学部	6	80	0	480		1.02	1.01				
薬学科	6	80	0	480	学士(薬学)	1.02	1.01	－	平成20	大阪府吹田市山田丘1番6号	
薬科学科	4	－	－	－	学士(薬科学)	－	－	－	－	－	平成31年度入学生より学生募集停止
工学部	4	820	3年次12	3,304		1.07	1.03				
応用自然科学科	4	217	3年次3	874	学士(工学)	1.07	1.02	－	平成20	大阪府吹田市山田丘2番1号	
応用理工学科	4	248	3年次3	998	学士(工学)	1.06	1.02	－	平成20	同上	
電子情報工学科	4	162	3年次6	660	学士(工学)	1.09	1.04	－	平成20	同上	
環境・エネルギー工学科	4	75	0	300	学士(工学)	1.06	1.04	－	平成20	同上	
地球総合工学科	4	118	0	472	学士(工学)	1.07	1.03	－	平成20	同上	

基礎工学部	4	435	3 年次 8	1, 756		1. 09	1. 03				
電子物理科学科	4	99	0	396	学士 (工学)	1. 12	1. 04	－	平成20	大阪府豊中市 待兼山町 1 番 3 号	
化学応用科学科	4	84	0	336	学士 (工学)	1. 08	1. 01	－	平成20	同上	
システム科学科	4	169	3 年次 8	692	学士 (工学)	1. 06	1. 01	－	平成20	同上	
情報科学科	4	83	0	332	学士 (工学)	1. 13	1. 08	－	平成20	同上	
大学全体		3, 252	2 年次 10 3 年次 60	13, 650	－	－	－	－	－	－	

- （注）・本調査の対象となっている大学短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
- なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「入学定員超過率」及び「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「－」とした上で、「非表示」設定としてください。
 - ・学部/の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度 A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6-7年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
 - ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 - ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教育研究実施組織の状況

大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科＜小児発達学専攻（博士前期課程）＞

（１）－① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤 真 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		基礎神経科学 発達基礎神経科学 こころの発達神経科学基礎演習 発達神経科学基礎特論
専	教授	片山 泰一 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		研究基礎技法 ※ 神経薬理学 1 神経薬理学 2 行動情動神経科学 2 こころの発達神経科学基礎演習 分子生物学基礎特論
専	教授	横山 茂 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		研究基礎技法 ※ 運動機能制御学 1 運動機能制御学 2 協調運動障害学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習
専	教授	土屋 賢治 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		研究基礎技法 ※ 児童精神医学 1 児童精神医学 2 疫学統計学 1 疫学統計学 2 社会支援学 こころの発達健康科学基礎演習 疫学統計学基礎特論 社会支援学基礎特論
専	教授	千住 淳 ＜令和6年4月＞ 博士（学術）
		疫学統計学 1 社会支援学 こころの発達健康科学基礎演習 社会支援学基礎特論 画像生物学基礎特論
専	教授	平野 好幸 ＜令和6年4月＞ 博士（獣医学）
		研究基礎技法 ※ 機能画像解析学 2 認知行動療法学 1 こころの認知行動科学基礎演習 認知行動脳科学基礎特論 生徒指導・教育相談概論
専	教授	大溪 俊幸 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		教育発達支援学 こころの認知行動科学基礎演習 メンタルヘルス支援学基礎特論

【令和6年度】

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤 真 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		基礎神経科学M 発達基礎神経科学M こころの発達神経科学基礎演習 発達神経科学基礎特論
専	教授	片山 泰一 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		神経薬理学 1 M 神経薬理学 2 M 行動情動神経科学 2 M こころの発達神経科学基礎演習 分子生物学基礎特論
専	教授	横山 茂 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		研究基礎技法 ※ 運動機能制御学 1 M 運動機能制御学 2 M 協調運動障害学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習
専	教授	土屋 賢治 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		児童精神医学 1 M 児童精神医学 2 M 疫学統計学 1 M 疫学統計学 2 M 社会支援学M こころの発達健康科学基礎演習 疫学統計学基礎特論 社会支援学基礎特論
専	教授	千住 淳 ＜令和6年4月＞ 博士（学術）
		研究基礎技法M ※ 疫学統計学 1 M 社会支援学M こころの発達健康科学基礎演習 社会支援学基礎特論 疫学統計学基礎特論
専	教授	平野 好幸 ＜令和6年4月＞ 博士（獣医学）
		研究基礎技法 ※ 機能画像解析学 2 M 認知行動療法学 1 M こころの認知行動科学基礎演習 認知行動脳科学基礎特論
専	教授	大溪 俊幸 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		教育発達支援学M メンタルヘルス支援学基礎特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大島 郁葉 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		認知行動療法学 2 教育発達支援学 こころの認知行動科学基礎演習 認知行動療法学基礎特論 認知行動療法学 1
専	教授	松崎 秀夫 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		研究基礎技法 ※ 臨床遺伝学 脳機能発達学基礎特論 こころの形成発達科学基礎演習
専	准教授	毛利 育子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達医学 1 こころの発達神経科学基礎演習 小児発達神経学基礎特論
専	准教授	下野 九理子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達医学 2 機能画像解析学 2 こころの発達神経科学基礎演習 高次脳機能損傷学基礎特論
専	准教授	橘 雅弥 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達医学 1 こころの発達神経科学基礎演習 小児発達神経学基礎特論
専	准教授	藤野 陽生 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学）
		発達臨床心理学 1 発達臨床心理学 2 こころの発達神経科学基礎演習 子育て支援学基礎特論
専	准教授	廣澤 徹 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		神経人間社会環境学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習 神経社会環境学
専	准教授	藤田 慶大 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学）
		行動情動神経科学 1 行動情動神経科学 2 基礎神経科学 認知行動生物学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習

教員区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大島 郁葉 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		研究基礎技法M ※ 社会支援学M 認知行動療法学 2 M 教育発達支援学M こころの認知行動科学基礎演習 認知行動療法学基礎特論 認知行動療法学 1 M
専	教授	松崎 秀夫 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		研究基礎技法 ※ 臨床遺伝学 脳機能発達学基礎特論 こころの形成発達科学基礎演習
専	教授	木村 亮 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		発達基礎神経科学M 生命情報学基礎特論
専	准教授	毛利 育子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達医学 1 M 小児発達医学 2 M こころの発達神経科学基礎演習 小児発達神経学基礎特論
専	教授	下野 九理子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達医学 1 M 小児発達医学 2 M 機能画像解析学 2 M こころの発達神経科学基礎演習 高次脳機能損傷学基礎特論
専	准教授	橘 雅弥 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達医学 1 M こころの発達神経科学基礎演習 小児発達神経学基礎特論
専	准教授	藤野 陽生 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学）
		研究基礎技法M ※ 発達臨床心理学 1 M 発達臨床心理学 2 M こころの発達神経科学基礎演習 子育て支援学基礎特論
専	准教授	廣澤 徹 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		神経人間社会環境学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習 神経社会環境学M
専	准教授	藤田 慶大 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学）
		行動情動神経科学 1 M 行動情動神経科学 2 M 基礎神経科学M 認知行動生物学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	池田 尊司 ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		機能画像解析学 1 こころの相互認知科学基礎演習 神経人間社会環境学基礎特論 高次脳機能学基礎特論 神経社会環境学
専	准教授	水野 賀史 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		機能画像解析学 1 機能画像解析学 2 情動認知発達学基礎特論 発達環境支援学基礎特論 岡 雄一郎 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）
専	講師	発達分子生物学 基礎神経科学 発達基礎神経科学 こころの発達神経科学基礎演習 発達神経科学基礎特論
専	講師	吉村 武 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		発達分子生物学 こころの発達神経科学基礎演習 分子生物学基礎特論
専	講師	西村 倫子 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		疫学統計学 1 疫学統計学 2 こころの発達健康科学基礎演習 疫学統計学基礎特論 社会支援学基礎特論
専	講師	岩渕 俊樹 ＜令和6年4月＞ 博士（情報学）
		こころの発達健康科学基礎演習 画像生物学基礎特論 疫学統計学基礎特論
専	講師	Md. Shafiur Rahman ＜令和6年4月＞ 博士（保健学）
		こころの発達健康科学基礎演習 疫学統計学基礎特論
専	講師	浦尾 悠子 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		教育発達支援学 こころの認知行動科学基礎演習 メンタルヘルス支援学基礎特論
専	助教	三好 耕 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		発達分子生物学 分子生物学基礎特論
専	助教	青木 京子 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学基礎特論

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	池田 尊司 ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		研究基礎技法M ※ 機能画像解析学 1 M こころの相互認知科学基礎演習 神経人間社会環境学基礎特論 高次脳機能学基礎特論 神経社会環境学M
専	准教授	水野 賀史 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		機能画像解析学 1 M 機能画像解析学 2 M 情動認知発達学基礎特論 発達環境支援学基礎特論 岡 雄一郎 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）
専	講師	研究基礎技法M ※ 発達分子生物学M 基礎神経科学M 発達基礎神経科学M こころの発達神経科学基礎演習 発達神経科学基礎特論
専	講師	吉村 武 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		研究基礎技法M ※ 発達基礎神経科学M 発達分子生物学M こころの発達神経科学基礎演習 分子生物学基礎特論
専	講師	西村 倫子 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		研究基礎技法M ※ 疫学統計学 1 M 疫学統計学 2 M こころの発達健康科学基礎演習 疫学統計学基礎特論 社会支援学基礎特論
専	講師	岩渕 俊樹 ＜令和6年4月＞ 博士（情報学）
		研究基礎技法M ※ 機能画像解析学 1 M こころの発達健康科学基礎演習 画像生物学基礎特論 疫学統計学基礎特論
専	講師	Md. Shafiur Rahman ＜令和6年4月＞ 博士（保健学）
		こころの発達健康科学基礎演習 疫学統計学基礎特論 社会支援学基礎特論
専	講師	浦尾 悠子 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		研究基礎技法M ※ 教育発達支援学M こころの認知行動科学基礎演習 メンタルヘルス支援学基礎特論
専	助教	三好 耕 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		発達分子生物学M 分子生物学基礎特論
専	助教	青木 京子 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）
		分子生物学基礎特論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	石井 篤子 ＜令和6年4月＞ 博士（国際公共政策）
		発達臨床心理学 1 子育て支援学基礎特論
専	助教	岩谷 祥子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		高次脳機能損傷学基礎特論
専	助教	吉崎 亜里香 ＜令和6年4月＞ 修士（人文学科）
		発達臨床心理学 2
専	助教	山本 知加 ＜令和6年4月＞ 修士（人間科学）
		発達臨床心理学 1 子育て支援学基礎特論
専	助教	平田 郁子 ＜令和6年4月＞ 学士（医学）
		高次脳機能損傷学基礎特論
専	助教	村田 絵美 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		発達臨床心理学 1
専	助教	藤原 悠紀 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）
		発達分子生物学 分子生物学基礎特論
専	助教	田中 早苗 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		神経社会環境学 コミュニケーション支援学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習
専	助教	原田 妙子 ＜令和6年4月＞ 博士（人間環境情報学）
		こころの発達健康科学基礎演習 画像生物学基礎特論 社会支援学基礎特論 疫学統計学基礎特論
専	助教	奥村 明美 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		疫学統計学 1 こころの発達健康科学基礎演習 疫学統計学基礎特論 社会支援学基礎特論 社会支援学

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	石井 篤子 ＜令和6年4月＞ 博士（国際公共政策）
		発達臨床心理学 2 子育て支援学基礎特論
専	助教	岩谷 祥子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達医学 2 M こころの発達神経科学基礎演習
専	助教	吉崎 亜里香 ＜令和6年4月＞ 修士（人文学科）
		発達臨床心理学 1 M こころの発達神経科学基礎演習
専	助教	山本 知加 ＜令和6年4月＞ 修士（人間科学）
		発達臨床心理学 1 M こころの発達神経科学基礎演習 子育て支援学基礎特論
専	助教	平田 郁子 ＜令和6年4月＞ 学士（医学）
		こころの発達神経科学基礎演習 高次脳機能損傷学基礎特論
専	助教	村田 絵美 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		発達臨床心理学 2 M
専	助教	藤原 悠紀 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）
		発達分子生物学M 分子生物学基礎特論
専	助教	田中 早苗 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		神経社会環境学M コミュニケーション支援学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習
専	助教	原田 妙子 ＜令和6年4月＞ 博士（人間環境情報学）
		こころの発達健康科学基礎演習 社会支援学基礎特論 疫学統計学基礎特論
専	助教	奥村 明美 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		疫学統計学 1 M こころの発達健康科学基礎演習 疫学統計学基礎特論 社会支援学基礎特論 社会支援学M

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	角谷 基文 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）
		こころの発達健康科学基礎演習 画像生物学基礎特論 機能画像解析学 2
専	助教	川上 澄香 ＜令和6年4月＞ 博士（人間健康科学）
		こころの発達健康科学基礎演習 社会支援学基礎特論
専	助教	辻 知陽 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		行動情動神経科学 2 認知行動生物学基礎特論
専	助教	関 陽一 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		認知行動療法学 2 こころの認知行動科学基礎演習 認知行動療法学基礎特論
専	助教	謝 敏かく ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		基礎神経科学 脳機能発達学基礎特論
専	助教	濱谷 沙世 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		情動認知発達学基礎特論 小児保健学
専	助教	山下 雅俊 ＜令和6年4月＞ 博士（心理学）
		情動認知発達学基礎特論 機能画像解析学 2
専	助教	國石 洋 ＜令和6年4月＞ 博士（再生医科学）
		脳機能発達学基礎特論

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	角谷 基文 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）
		こころの発達健康科学基礎演習 機能画像解析学 1 M 機能画像解析学 2 M 社会支援学基礎特論
専	助教	川上 澄香 ＜令和6年4月＞ 博士（人間健康科学）
		こころの発達健康科学基礎演習 社会支援学基礎特論 疫学統計学基礎特論
専	助教	辻 知陽 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		行動情動神経科学 2 M 認知行動生物学基礎特論
専	助教	関 陽一 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		認知行動療法学 2 M こころの認知行動科学基礎演習 認知行動療法学基礎特論
専	助教	謝 敏かく ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		研究基礎技法M ※ 基礎神経科学M こころの形成発達科学基礎演習 脳機能発達学基礎特論
専	助教	濱谷 沙世 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		情動認知発達学基礎特論 小児保健学M
専	助教	山下 雅俊 ＜令和6年4月＞ 博士（心理学）
		研究基礎技法M ※ 情動認知発達学基礎特論 機能画像解析学 2 M
専	助教	國石 洋 ＜令和6年4月＞ 博士（再生医科学）
		脳機能発達学基礎特論
専	助教	粟生 智香 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		神経薬理学 2 M 発達基礎神経科学M
専	助教	吉田 斎子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		認知行動療法学 1 M こころの認知行動科学基礎演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	野村 晴夫 ＜令和6年4月＞ 博士（教育学） 発達臨床心理学 2
兼任	教授	加藤 和人 ＜令和6年4月＞ 博士（理学） 生命倫理学 ※
兼任	教授	山中 浩司 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学） 生命倫理学 ※
兼任	教授	橋本 均 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学） 神経薬理学 1
兼任	教授	田熊 一敬 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学） 神経薬理学 1
兼任	教授	山崎 あけみ ＜令和6年4月＞ 博士（学術） 小児保健学
兼任	准教授	平井 啓 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学） 生命倫理学 ※ 発達臨床心理学 2
兼任	准教授	野坂 祐子 ＜令和6年4月＞ 博士（人間学） 発達臨床心理学 1
兼任	准教授	望月 直人 ＜令和6年4月＞ 博士（教育学） 発達臨床心理学 2

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	寿 秋露 ＜令和6年4月＞ 博士（学術） 機能画像解析学 1 M 情動認知発達学基礎特論
兼任	教授	野村 晴夫 ＜令和6年4月＞ 博士（教育学） 発達臨床心理学 2 M
兼任	教授	加藤 和人 ＜令和6年4月＞ 博士（理学） 生命倫理学M ※
兼任	教授	山中 浩司 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学） 生命倫理学M ※
兼任	教授	橋本 均 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学） 発達基礎神経科学M
兼任	教授	田熊 一敬 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学） 神経薬理学 1 M
兼任	教授	山崎 あけみ ＜令和6年4月＞ 博士（学術） 小児保健学M
兼任	准教授	平井 啓 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学） 生命倫理学M ※ 発達臨床心理学 2 M
兼任	准教授	野坂 祐子 ＜令和6年4月＞ 博士（人間学） 発達臨床心理学 2 M
兼任	准教授	望月 直人 ＜令和6年4月＞ 博士（教育学） 発達臨床心理学 1 M こころの発達神経科学基礎演習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	早田 敦子 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）
		神経薬理学 1 神経薬理学 2
兼任	准教授	馬戸 史子 ＜令和6年4月＞ M.S.（理学修士）（アメリカ）
		生命倫理学 ※
兼任	准教授	臼井 紀好 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）（総合研究大学院大学）
		発達分子生物学
兼任	助教	相澤 弥生 ＜令和6年4月＞ 修士（学術）
		生命倫理学 ※
兼任	助教	菊池 良太 ＜令和6年4月＞ 博士（保健学）（東京大学）
		小児保健学
兼任	助教	古結 敦士 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）（大阪大学）
		生命倫理学 ※

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	早田 敦子 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）
		神経薬理学 1 M 神経薬理学 2 M
兼任	准教授	馬戸 史子 ＜令和6年4月＞ M.S.（理学修士）（アメリカ）
		生命倫理学M ※
兼任	准教授	臼井 紀好 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）（総合研究大学院大学）
		発達分子生物学M
兼任	准教授	山本 賢一 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		臨床遺伝学M 小児保健学M
兼任	講師	青天目 信 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達医学 2 M
兼任	講師	菊池 良太 ＜令和6年4月＞ 博士（保健学）（東京大学）
		小児保健学M
兼任	助教	古結 敦士 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）（大阪大学）
		生命倫理学M ※
兼任	助教	磯野 萌子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		生命倫理学M ※
兼任	特任助教 （常勤）	橘 真紀子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達医学 2 M

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	堀 修 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		行動情動神経科学 2 運動機能制御学 1
兼任	教授	菊知 充 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		機能画像解析学 2 神経社会環境学 神経人間社会環境学基礎特論
兼任	教授	大黒 多希子 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学）
		行動情動神経科学 1
兼任	教授	吉川 弘明 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		運動機能制御学 2
兼任	教授	三枝 理博 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）
		行動情動神経科学 1
兼任	教授	松井 三枝 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		行動情動神経科学 1
兼任	教授	小林 宏明 ＜令和6年4月＞ 博士（心身障害学）
		小児発達療育学 コミュニケーション支援学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習
兼任	教授	荒木 友希子 ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		小児発達療育学 コミュニケーション支援学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習
兼任	教授	尾内 康臣 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		画像生物学基礎特論
兼任	教授	山末 英典 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		児童精神医学 2 機能画像解析学 2

教員区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	堀 修 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		行動情動神経科学 2 M 運動機能制御学 1 M
兼任	教授	菊知 充 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		機能画像解析学 2 M 神経社会環境学M 神経人間社会環境学基礎特論
兼任	教授	大黒 多希子 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学）
		行動情動神経科学 1 M
兼任	教授	吉川 弘明 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		運動機能制御学 2 M
兼任	教授	三枝 理博 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）
		行動情動神経科学 1 M
兼任	教授	松井 三枝 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		行動情動神経科学 1 M
兼任	教授	小林 宏明 ＜令和6年4月＞ 博士（心身障害学）
		小児発達療育学M コミュニケーション支援学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習
兼任	教授	荒木 友希子 ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		小児発達療育学M コミュニケーション支援学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習
兼任	教授	尾内 康臣 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		画像生物学基礎特論
兼任	教授	山末 英典 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		児童精神医学 2 M 機能画像解析学 2 M

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	高貝 就 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		児童精神医学 1 児童精神医学 2 社会支援学基礎特論
兼任	教授	清水 栄司 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		認知行動療法学 1 認知行動療法学 2 生徒指導・教育相談概論 メンタルヘルス支援学基礎特論
兼任	教授	花澤 寿 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		メンタルヘルス支援学基礎特論
兼任	教授	濱田 洋通 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		メンタルヘルス支援学基礎特論
兼任	教授	杉田 克生 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		教育発達支援学
兼任	教授	伊藤 絵美 ＜令和6年4月＞ 博士（社会学）
		認知行動療法学 1 認知行動療法学基礎特論
兼任	教授	堀 清一郎 ＜令和6年4月＞ 学士（法学）
		生徒指導・教育相談概論
兼任	教授	小畠 隆行 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		認知行動脳科学基礎特論
兼任	教授	小坂 浩隆 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		機能画像解析学 2
兼任	教授	岡沢 秀彦 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		機能画像解析学 1

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	高貝 就 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		児童精神医学 1 M 児童精神医学 2 M 社会支援学基礎特論
兼任	教授	清水 栄司 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		認知行動療法学 1 M 認知行動療法学 2 M ストレスチェック学校保健学M こころの認知行動科学基礎演習 メンタルヘルス支援学基礎特論
兼任	教授	花澤 寿 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		メンタルヘルス支援学基礎特論
兼任	教授	杉田 克生 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		教育発達支援学M
兼任	教授	堀 清一郎 ＜令和6年4月＞ 学士（法学）
		ストレスチェック学校保健学M
兼任	教授	小畠 隆行 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		こころの認知行動科学基礎演習 認知行動脳科学基礎特論
兼任	教授	小坂 浩隆 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		機能画像解析学 2 M
兼任	教授	岡沢 秀彦 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		機能画像解析学 1 M

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	清野 泰 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学）
		機能画像解析学 1
兼任	教授	上原 佳子 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		小児保健学
兼任	教授	霜田 求 ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		生命倫理学 ※
兼任	教授	加藤 久美 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達医学 1
兼任	教授	杉山 尚子 ＜令和6年4月＞ 修士（文学）
		認知行動療法学 1
兼任	教授	松崎 伸介 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		発達分子生物学
兼任	教授	酒井 佐枝子 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学）
		発達臨床心理学 2
兼任	教授	岸 俊行 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学）
		インストラクショナルデザイン研究
兼任	教授	廣澤 愛子 ＜令和6年4月＞ 博士（心理学）
		こころの形成発達科学基礎演習
兼任	教授	辻井 正次 ＜令和6年4月＞ 修士（教育学）
		社会支援学

教員区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	清野 泰 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学）
		機能画像解析学 1 M
兼任	教授	上原 佳子 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		小児保健学M
兼任	教授	霜田 求 ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		生命倫理学M ※
兼任	教授	加藤 久美 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達医学 1 M
兼任	教授	杉山 尚子 ＜令和6年4月＞ 修士（文学）
		認知行動療法学 1 M
兼任	教授	松崎 伸介 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		発達分子生物学M 発達基礎神経科学M
兼任	教授	酒井 佐枝子 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学）
		発達臨床心理学 2 M
兼任	教授	岸 俊行 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学）
		インストラクショナルデザイン研究M 脳機能発達学基礎特論
兼任	教授	廣澤 愛子 ＜令和6年4月＞ 博士（心理学）
		こころの形成発達科学基礎演習 脳機能発達学基礎特論
兼任	教授	辻井 正次 ＜令和6年4月＞ 修士（教育学）
		社会支援学M

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	東田 陽博 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		神経社会環境学 運動機能制御学Ⅱ 協調運動障害学基礎特論
兼任	教授	滝澤 昇 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		神経社会環境学
兼任	教授	越田 理恵 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		神経社会環境学
兼任	教授	佐藤 拓代 ＜令和6年4月＞ 医学士
		小児発達医学Ⅱ
兼任	教授	和田 和子 ＜令和6年4月＞ 医学士
		小児発達医学Ⅱ

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	東田 陽博 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		神経社会環境学M 運動機能制御学ⅡM 協調運動障害学基礎特論
兼任	教授	滝澤 昇 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		神経社会環境学M
兼任	教授	越田 理恵 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		神経社会環境学M
兼任	教授	佐藤 拓代 ＜令和6年4月＞ 医学士
		小児発達医学ⅡM
兼任	教授	和田 和子 ＜令和6年4月＞ 医学士
		小児発達医学ⅡM
兼任	教授	酒井 規夫 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		臨床遺伝学M
兼任	教授	猪口 徳一 ＜令和6年4月＞ 博士（バイオサイエンス）
		基礎神経科学M 発達基礎神経科学M
兼任	教授	重松 陽介 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児保健学M
兼任	教授	安倍 博 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児保健学M
兼任	教授	杉山 登志朗 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		児童精神医学ⅡM

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	堀家 慎一 ＜令和6年4月＞ 博士（生命科学）
		行動情動神経科学 1 運動機能制御学 2 協調運動障害学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習
兼任	准教授	吉村 優子 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		小児発達評価学 高次脳機能学基礎特論 コミュニケーション支援学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習
兼任	准教授	服部 剛志 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		発達分子生物学
兼任	准教授	北村 陽二 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学）
		機能画像解析学 1 認知行動生物学基礎特論
兼任	准教授	松澤 大輔 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		教育発達支援学 認知行動脳科学基礎特論
兼任	准教授	藤岡 徹 ＜令和6年4月＞ 博士（行動科学）
		小児発達療育学
兼任	准教授	楠木 重範 ＜令和6年4月＞ 医学士
		生命倫理学 ※ 小児発達医学 2
兼任	准教授	小門 穂 ＜令和6年4月＞ 博士（人間・環境学）
		生命倫理学 ※
兼任	准教授	馬場 幸子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		生命倫理学 ※
兼任	准教授	國分 力 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		臨床遺伝学

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	堀家 慎一 ＜令和6年4月＞ 博士（生命科学）
		行動情動神経科学 1 M 運動機能制御学 2 M 協調運動障害学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習
兼任	教授	吉村 優子 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		研究基礎技法M ※ 小児発達評価学M コミュニケーション支援学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習
兼任	准教授	服部 剛志 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		発達分子生物学M
兼任	准教授	北村 陽二 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学）
		機能画像解析学 1 M 認知行動生物学基礎特論
兼任	教授	松澤 大輔 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		教育発達支援学M 認知行動脳科学基礎特論
兼任	准教授	藤岡 徹 ＜令和6年4月＞ 博士（行動科学）
		小児発達療育学M 脳機能発達学基礎特論
兼任	准教授	楠木 重範 ＜令和6年4月＞ 医学士
		生命倫理学M ※ 小児発達医学 2 M
兼任	准教授	小門 穂 ＜令和6年4月＞ 博士（人間・環境学）
		生命倫理学M ※
兼任	准教授	馬場 幸子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		生命倫理学M ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	大西 将史 ＜令和6年4月＞ 博士（学術）
		発達教育心理学
兼任	准教授	滝口 慎一郎 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児保健学
兼任	准教授	村中 達矢 ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		神経社会環境学
兼任	准教授	高橋 長秀 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		児童精神医学 1 児童精神医学 2 疫学統計学基礎特論 社会支援学基礎特論
兼任	講師	沼田 法子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		認知行動療法学 2 こころの認知行動科学基礎演習 認知行動療法学基礎特論
兼任	講師	椎野 智子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達医学 1
兼任	助教	小阪 孝史 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学）
		認知行動生物学基礎特論

教員区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	大西 将史 ＜令和6年4月＞ 博士（学術）
		発達教育心理学M 脳機能発達学基礎特論
兼任	准教授	村中 達矢 ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		神経社会環境学M
兼任	准教授	高橋 長秀 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		児童精神医学 1 M 児童精神医学 2 M 疫学統計学基礎特論 社会支援学基礎特論
兼任	准教授	森本 武志 ＜令和6年4月＞ 医学士
		小児保健学M
兼任	講師	吉田 寿雄 ＜令和6年4月＞ 医学士
		小児発達医学 2 M
兼任	講師	沼田 法子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		認知行動療法学 2 M こころの認知行動科学基礎演習 認知行動療法学基礎特論
兼任	講師	椎野 智子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達医学 1 M
兼任	講師	小阪 孝史 ＜令和6年4月＞ 博士（薬学）
		認知行動生物学基礎特論
兼任	講師	加藤 陽子 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		発達基礎神経科学M

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	横倉 正倫 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		機能画像解析学 1
兼任	助教	亀野 陽亮 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		児童精神医学 1
兼任	助教	廣瀬 素久 ＜令和6年4月＞ 博士（小児発達学）
		認知行動脳科学基礎特論
兼任	助教	久能 勝 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		認知行動療法学 1 認知行動療法学 2 認知行動脳科学基礎特論
兼任	助教	田口 佳代子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		認知行動療法学 2
兼任	助教	加藤 奈子 ＜令和6年4月＞ 学士（医学）
		認知行動療法学 1 認知行動療法学 2
兼任	助教	大田 淳子 ＜令和6年4月＞ 博士（保健学）
		認知行動脳科学基礎特論
兼任	助教	Bhusal Chhatkuli Ritu ＜令和6年4月＞ 博士（工学）
		認知行動脳科学基礎特論
兼任	講師	牧田 快 ＜令和6年4月＞ 博士（理学）
		機能画像解析学 1
兼任	教授	上田 功 ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		小児発達評価学

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	横倉 正倫 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		機能画像解析学 1 M
兼任	助教	亀野 陽亮 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		児童精神医学 1 M
兼任	助教	久能 勝 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		認知行動療法学 1 M 認知行動療法学 2 M こころの認知行動科学基礎演習 認知行動脳科学基礎特論
専	助教	田口 佳代子 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		認知行動療法学 2 M こころの認知行動科学基礎演習
兼任	助教	加藤 奈子 ＜令和6年4月＞ 学士（医学）
		認知行動療法学 1 M 認知行動療法学 2 M こころの認知行動科学基礎演習
兼任	助教	大田 淳子 ＜令和6年4月＞ 博士（保健学）
		こころの認知行動科学基礎演習 認知行動脳科学基礎特論
専	助教	Bhusal Chhatkuli Ritu ＜令和6年4月＞ 博士（工学）
		こころの認知行動科学基礎演習 認知行動脳科学基礎特論
兼任	教授	上田 功 ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		小児発達評価学M

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	大井 学 ＜令和6年4月＞ 博士（教育学）
		小児発達評価学
兼任	教授	桑原 斉 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		児童精神医学 2 疫学統計学基礎特論 社会支援学基礎特論
兼任	講師	吉原 亨 ＜令和6年4月＞ 博士（行動科学）
		運動機能制御学 2
兼任	教授	平谷 美智夫 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達療育学
兼任	教授	清水 聡 ＜令和6年4月＞ 学術修士
		小児発達療育学
兼任	教授	高橋 史 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学）
		教育発達支援学
兼任	教授	本田 秀夫 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学）
		教育発達支援学
兼任	准教授	齋藤 大輔 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		高次脳機能学基礎特論
兼任	教授	眞部 孝幸 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		発達分子生物学
兼任	助教	松本 恵 ＜令和6年4月＞ 修士（人間科学）
		発達臨床心理学 1

教員 区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	大井 学 ＜令和6年4月＞ 博士（教育学）
		小児発達評価学M
兼任	教授	桑原 斉 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		児童精神医学 2 M 疫学統計学基礎特論 社会支援学基礎特論
兼任	講師	吉原 亨 ＜令和6年4月＞ 博士（行動科学）
		運動機能制御学 2 M
兼任	教授	平谷 美智夫 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		小児発達療育学M
兼任	教授	清水 聡 ＜令和6年4月＞ 学術修士
		小児発達療育学M
兼任	准教授	高橋 史 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学）
		教育発達支援学M
兼任	教授	本田 秀夫 ＜令和6年4月＞ 博士（人間科学）
		教育発達支援学M
兼任	准教授	齋藤 大輔 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		高次脳機能学基礎特論
兼任	教授	眞部 孝幸 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		発達分子生物学M
兼任	助教	松本 恵 ＜令和6年4月＞ 修士（人間科学）
		発達臨床心理学 2 M

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	矢追 健 ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		神経人間社会環境学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習

教員区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	矢追 健 ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		神経人間社会環境学基礎特論 こころの相互認知科学基礎演習
兼任	助教	野口 晃菜 ＜令和6年4月＞ 博士（障害科学）
		教育発達支援学Ⅱ
兼任	助教	平石 博敏 ＜令和6年4月＞ 博士（医学）
		こころの発達健康科学基礎演習 画像生物学基礎特論

- （注） ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）（その2の2）（その2の3）に準じて作成してください。
 なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等（令和4年10月1日施行前）に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等（令和4年10月1日施行）の適用以前については、改正前様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（基幹教員（大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」）以外の教員（助手を除く）（改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員）を含む。）を黒字で記入してください。
 その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 記載は、設置認可時又は届出時における「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」に記載されている「教員区分」（改正後大学設置基準等の適用以前は「専任等区分」）の順に記入してください。
 - ・ 改正後大学設置基準等（令和4年10月1日施行）の適用以降については、主要授業科目にあたる「担当授業科目名」に下線を引いてください。（大学院、高等専門学校は除く）
 - ・ 教員がサバティカル等で不在の期間がある場合、その期間（年月日）を上段「学位」の下へ記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和6年度】

・片山泰一	担当授業の見直しにより、研究基礎技法Mを削除
・土屋賢治	担当授業の見直しにより、研究基礎技法Mを削除
・千住 淳	担当授業の見直しにより、研究基礎技法M・疫学統計学基礎特論を追加、画像生物学基礎特論を削除
・平野好幸	担当授業の見直しにより、生徒指導・教育相談概論を削除
・大溪俊幸	担当授業の見直しにより、こころの認知行動科学基礎演習を削除
・大島郁葉	担当授業の見直しにより、研究基礎技法M・社会支援学Mを追加
・木村 亮	教授就任、発達基礎神経科学M・生命情報学基礎特論を担当
・毛利育子	担当授業の見直しにより、小児発達医学2Mを追加
・下野九理子	教授昇任、担当授業の見直しにより、小児発達医学1Mを追加
・藤野陽生	担当授業の見直しにより、研究基礎技法Mを追加
・池田尊司	担当授業の見直しにより、研究基礎技法Mを追加
・岡 雄一郎	担当授業の見直しにより、研究基礎技法Mを追加
・吉村 武	担当授業の見直しにより、研究基礎技法M、発達基礎神経科学Mを追加
・西村倫子	担当授業の見直しにより、研究基礎技法Mを追加
・岩渕俊樹	担当授業の見直しにより、研究基礎技法M、機能画像解析学1Mを追加
・Md. Shafiur Rahman	担当授業の見直しにより、社会支援学基礎特論を追加
・浦尾悠子	担当授業の見直しにより、研究基礎技法Mを追加
・石井篤子	担当授業の見直しにより、発達臨床心理学1を削除、発達臨床心理学2を追加
・岩谷祥子	担当授業の見直しにより、小児発達医学2M・こころの発達神経科学基礎演習を追加、高次脳機能損傷学基礎特論を削除
・吉崎亜里香	担当授業の見直しにより、発達臨床心理学1Mを削除、発達臨床心理学2M・こころの発達神経科学基礎演習を追加
・山本知加	担当授業の見直しにより、こころの発達神経科学基礎演習を追加
・平田郁子	担当授業の見直しにより、こころの発達神経科学基礎演習を追加
・村田絵美	担当授業の見直しにより、発達臨床心理学1Mを削除、発達臨床心理学2Mを追加
・原田妙子	担当授業の見直しにより、画像生物学基礎特論を削除
・角谷基文	担当授業の見直しにより、画像生物学基礎特論を削除、機能画像解析学1M・社会支援学基礎特論を追加
・川上澄香	担当授業の見直しにより、疫学統計学基礎特論を追加
・謝 敏かく	担当授業の見直しにより、研究基礎技法M・こころの形成発達科学基礎演習を追加
・山下雅俊	担当授業の見直しにより、研究基礎技法Mを追加
・粟生智香	助教就任、神経薬理学2M・発達基礎神経科学Mを担当
・吉田斎子	助教就任、認知行動療法学1M・こころの認知行動科学基礎演習を担当
・寿 秋露	助教就任、機能画像解析学1M・情動認知発達学基礎特論を担当
・橋本 均	担当授業の見直しにより、神経薬理学1Mを削除、発達基礎神経科学Mを追加
・野坂祐子	担当授業の見直しにより、発達臨床心理学1Mを削除、発達臨床心理学2Mを追加
・望月直人	担当授業の見直しにより、発達臨床心理学1M・こころの発達神経科学基礎演習を追加、発達臨床心理学2Mを削除
・山本賢一	兼任教員就任、臨床遺伝学M・小児保健学Mを担当
・青天目信	兼任教員就任、小児発達医学2Mを担当
・相澤弥生	就任辞退により、削除
・菊池良太	職名を修正
・磯野萌子	兼任教員就任、生命倫理学Mを担当
・橘 真紀子	兼任教員就任、小児発達医学2Mを担当
・清水栄司	担当授業の見直しにより、こころの認知行動科学基礎演習を追加、生徒指導・教育相談概論からストレスチェック学校保健学Mに科目名変更
・濱田洋通	就任辞退により、削除
・伊藤絵美	就任辞退により、削除
・堀 清一郎	生徒指導・教育相談概論からストレスチェック学校保健学Mに科目名変更
・小畠隆行	担当授業の見直しにより、こころの認知行動科学基礎演習
・松崎伸介	担当授業の見直しにより、発達基礎神経科学Mを追加
・岸 俊行	担当授業の見直しにより、脳機能発達学基礎特論を追加
・廣澤愛子	担当授業の見直しにより、脳機能発達学基礎特論を追加
・酒井規夫、	兼任教員就任、臨床遺伝学Mを担当
・猪口徳一	兼任教員就任、基礎神経科学M・発達基礎神経科学Mを担当
・重松陽介	兼任教員就任、小児保健学Mを担当
・安倍 博	兼任教員就任、小児保健学Mを担当
・杉山登志朗	兼任教員就任、児童精神医学2Mを担当
・吉村優子	教授昇任、担当授業の見直しにより、研究基礎技法Mを追加、高次脳機能学基礎特論を削除
・松澤大輔	教授昇任
・藤岡 徹	担当授業の見直しにより、脳機能発達学基礎特論を追加
・國分 力	就任辞退により、削除
・大西将史	担当授業の見直しにより、脳機能発達学基礎特論を追加
・滝口慎一郎	就任辞退により、削除
・森本武志	兼任教員就任、小児保健学Mを担当
・吉田寿雄	兼任教員就任、小児発達医学2Mを担当
・小阪孝史	講師昇任
・加藤陽子	兼任教員就任、発達基礎神経科学Mを担当
・廣瀬素久	就任辞退により、削除
・久能 勝	担当授業の見直しにより、こころの認知行動科学基礎演習を追加
・田口佳代子	兼任教員から専任教員に変更、担当授業の見直しにより、こころの認知行動科学基礎演習を追加
・加藤奈子	担当授業の見直しにより、こころの認知行動科学基礎演習を追加
・大田淳子	担当授業の見直しにより、こころの認知行動科学基礎演習を追加
・Bhusal Chhatkuli Ritu	兼任教員から専任教員に変更、担当授業の見直しにより、こころの認知行動科学基礎演習を追加
・牧田 快	就任辞退により、削除
・高橋 史	職名の修正
・松本 恵	担当授業の見直しにより、発達臨床心理学1Mを削除、発達臨床心理学2Mを追加
・野口晃菜	兼任教員就任、教育発達支援学Mを担当
・平石博敏	兼任教員就任、こころの発達健康科学基礎演習・画像生物学基礎特論を担当

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の基幹（専任）教員を変更する場合は**、当該基幹（専任）教員が授業を開始する前に必ず「基幹（専任）教員採用等設置計画変更書」を提出し大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。
- 原則としてＡＣ教員審査を受けずに基幹（専任）教員として授業等を担当することは出来ません。**
- なお、改正前大学設置基準等に基づいて認可を受けて設置された学部等が、改正後大学設置基準等への適用のため、大学が基幹教員の要件を満たすと判断した「専任教員」を「基幹教員」とする場合は、ＡＣ教員審査を受審する必要はない扱いとしています。（改正後大学設置基準等の適用にあたり、「基幹教員」の担当授業科目を追加する場合、「基幹教員」の担当授業科目の内容を変更するなど、ＡＣ教員審査の受審を求めている事由が発生する場合は、ＡＣ教員審査を受審する必要があります。）
- ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和５年度開設であれば令和３年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
6	4	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 （A）	助手 （A'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計 （B）	助手 （B'）
9	8	6	20	43	0	11	7	6	25	49	0
(11)	(7)	(6)	(25)	(49)	(0)						
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
23	9	20	0			24	11	25	0		
(24)	(11)	(25)	(0)								
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 （C）	助手 （C'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計 （D）	助手 （D'）
11	7	6	25	49	0	11	7	6	25	49	0
[2]	[Δ1]	[0]	[5]	[6]	[0]	[2]	[Δ1]	[0]	[5]	[6]	[0]
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
24	11	25	0			24	11	25	0		
[1]	[2]	[5]	[0]			[1]	[2]	[5]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)－③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)－④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{49}{43} = \boxed{113.95} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{0}{49} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 基幹（専任）教員辞任等の理由
(3)－① 基幹（専任）教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		該当なし					
合計（D）						後任補充状況の集計（E）	
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての基幹（専任）教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
就任した後に辞任した教員は、以下「（3）－②基幹（専任）教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで
に基幹（専任）教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－② 基幹（専任）教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
合計（F）						後任補充状況の集計（G）	
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。
（学年進行中に基幹教員の要件を満たさなくなったことにより、基幹教員でなくなった教員についても記入してください。）
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで
に基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（Ｄ）＋（Ｆ）				後任補充状況の集計（Ｅ）＋（Ｇ）							
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{43} = 0 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した基幹（専任）教員等の状況

0 人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した基幹（専任）教員数の合計数を記載してください。

・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した基幹（専任）教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	基幹（専任）教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合 計					後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	

(注) ・ 定年により退職した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 基幹（専任）教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(注) ・ 上記 (3) の基幹（専任）教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（５）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（６）」と記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（５）（６）」と記載してください。
 - 【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（６）」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所

＜小児発達学専攻（博士前期課程）＞

（１）設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 施設・設備	① 学生の修学環境を改善するため、自習室を４部屋（計80㎡）、共有スペース１部屋（26㎡）及び教員居室１部屋（26㎡）を増やした。

（注）・ １～６の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（２）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- （１）教務担当者会議
- （２）FD担当者会議
- （３）ハラスメント防止対策委員会

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- （１）教務担当者会議
不定期（概ね月１回程度）開催（各構成大学から教務担当教員各２～４名を選出）
- （２）FD担当者会議
不定期（概ね年１回程度）開催（各構成大学から教務担当教員各１～２名を選出）
- （３）ハラスメント防止対策委員会
不定期（概ね年１回程度）開催（研究科長を含め各構成大学から教務担当教員各２名を選出（うち少なくとも１名は教授））

c 委員会の審議事項等

- （１）教務担当者会議
研究科全体の教育課程及び教育の質保証と改善向上に関すること
研究科全体の学生支援に関すること ほか
- （２）FD担当者会議
研究科におけるFD研修会の検討 ほか
- （３）ハラスメント防止対策委員会
ハラスメント防止のための啓発活動の企画及び実施に関すること
教職員及び学生に対する研修に関すること
ハラスメントの再発防止策の検討に関すること ほか

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 大阪大学全体および全学教育推進機構が行っている様々なFDの研修プログラムや研修会に加えて、研究科独自でも年1回、FD研修会及びハラスメント防止研修会を開催予定。

b 実施方法

講義・セミナー形式 オンライン形式併用

c 開催状況（教員の参加状況含む）

令和6年12月にハラスメント防止研修会を開催予定。FD研修会は今年度中に1回開催予定。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 教員の資質向上を図ることで、教育の質向上につなげることが見込まれる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 春・夏及び秋・冬学期の終了時に学生アンケートを実施予定

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 結果は学生には非公開。授業担当教員にはアンケート結果がまとまり次第報告することで、今後の授業のあり方の検討に役立てていただいている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

（4）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

今後、評価担当者会議において、評価・検討する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

博士後期課程に係る自己点検・評価は令和4年度までの5年分について今年度中に実施する予定である。

博士前期課程を含めた自己点検・評価は今後検討するが、概ね5年後（令和11年度）に実施する予定である。

b 公表方法

ホームページに掲載することを予定している。

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

令和9年度受審予定

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [☒ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学
 連合小児発達学研究科ハラスメント防止対策委員会規程

(設置)

第1条 大阪大学におけるハラスメントの防止等に関する規程第9条第1項の規定に基づき、大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科（以下「研究科」という。）に大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科ハラスメント防止対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(定義)

第2条 この規程において、「ハラスメント」とは、大阪大学におけるハラスメントの防止等に関する規程に定める行為をいう。

(業務)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を行う。

- (1) ハラスメント防止のための啓発活動の企画及び実施に関すること
- (2) 教職員及び学生に対する研修に関すること
- (3) ハラスメントの再発防止策の検討に関すること
- (4) その他研究科長が必要と認めること

(組織)

第4条 委員会は、各構成大学から選ばれた研究科の専任教員各2名（うち1名は教授に限る。）をもって組織する。

- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 委員が任期中に辞任した場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、研究科長が指名する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(ハラスメント相談員)

第6条 委員会に教職員及び学生に係るハラスメントの相談窓口として、ハラスメント相談員（以下「相談員」という。）を置く。

- 2 相談員は、委員及び大阪大学医学系研究科総務課専門職員をもって充てる。

(議事)

第7条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立するものとする。

(守秘義務)

第8条 委員及びハラスメント相談員並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合の対応に関わる者は、関係者の名誉、人権及びプライバシーを尊重するとともに、知りえ

た秘密をその任務中及び任務後において漏らしてはならない。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、連携大学の研究科事務担当者の協力を得て、大阪大学医学系研究科事務部で行う。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成22年7月1日から施行する。

2 第4条第1項の規定により最初に選出された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

附 則

この改正は、平成24年4月1日から施行する。